

**JJA
JEWELLERY
DESIGN
AWARDS
2012**



日本ジュエリーの最高峰を求めて JJA ジュエリーデザインアワード2012

時を超え人々の心を魅了してやまないジュエリーの数々。

ジュエリーは、創作する人の感性と装う人の感性が結びつき響き合うことによって生まれるアートと言えます。

真に美しい作品は国境を越え、人々の心に共感と感動を呼び起こします。欧米に比べ、ジュエリーの歴史が短いにも関わらず高い技術力・デザイン力を誇る我が国。固有の美しい文化と伝統を背景に未来を見つめた新しいジュエリーを求めていかなければなりません。

“JJA ジュエリーデザインアワード”は、日本ジュエリー文化の高揚を目的に「世界へ発信できる日本ジュエリーの最高峰を求めて」をテーマに毎年開催されています。

JJA ジュエリーデザインアワードでは、これまでシチュエーションによって分類した部門編成を改め、第1部門“プロフェッショナル部門”は、プロフェッショナルにふさわしく、時代をリードするデザイン・技術・品質を兼ね備えたジュエリーとし、第2部門“テーマ部門”では、テーマ規定に沿って、独創性豊かなデザイン、技術で表現されているジュエリーとしています。今年度は、当協会主催の“JJA ジュエリーつながり愛キャンペーン”に連動し、「つながり愛」をテーマとし、「つつむ」「つながる」「むすぶ」のキーワードをもとにデザイナー独自の視点から自由な発想と独自性があるジュエリーとしています。

また、第3部門“新人部門”では、新人・学生を対象に自由な発想を持った既成の概念を打ち破る新しい大胆な発想のジュエリーと位置づけています。

JJA ジュエリーデザインアワードは、未来のジュエリー業界を担う新しい可能性を持つクリエイターたちの優れた作品を発信する場として、世界に向けた日本のジュエリー文化のさらなる発展を求め続けます。

会期／会場 ○2012年8月28日～8月30日
ジャパンジュエリーフェア2012 (JFF2012)
東京ビッグサイト 東2・3ホール
アワード入賞作品展示会場

[展示作品]

特別賞含む全入賞作品

○2012年9月21日～9月25日
香港ジュエリー&ジェムフェア
香港コンベンションアンドエキシビジョンセンター
ホール3 JJA 広報ブース

[展示作品]

上位5賞及び第1部門、第2部門の優秀賞と佳作の
10作品

○2012年10月13日～11月25日
箱根ラリック美術館
2階 企画展示室

[展示作品]

特別賞含む全入賞作品

主催 一般社団法人日本ジュエリー協会
後援 経済産業省
厚生労働省
東京都
協賛 公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会
社団法人日本真珠振興会
プラチナ・ギルド・インターナショナル

**JJA
JEWELLERY
DESIGN
AWARDS
2012**



ご挨拶



一般社団法人日本ジュエリー協会
会長

堀 奉之

Hori Tomoyuki

一般社団法人日本ジュエリー協会は、ジュエリーに関する調査研究、内外関係機関等との交流及び協力等を行うことにより、ジュエリー業界の健全な発展を図り、もってわが国経済の発展と国民生活の向上に寄与することを目的にいくつかの事業を行っています。その一つに毎年実施している「JJA ジュエリーデザインアワード」があります。このコンテストは、国内最高峰を目指すとともに優れた作品を通じて日本におけるジュエリー文化の質の高さを世界に発信する絶好の機会となっています。

本年も多くの作品応募があり、いずれも素晴らしいジュエリーでありました。各入賞作品につきましては、公平かつ厳正な審査のもとで、2012年度「日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞」、「厚生労働大臣賞」、「東京都知事賞」をはじめとした各賞を決定させていただきました。応募者のコンテストへの意気込みも感じられ、秀作ぞろいの中から甲乙付ける事が難しかった様です。

「JJA ジュエリーデザインアワード2012」では、プロフェッショナル部門からはデザイン性、技術、着

想にプロとしての意識を、テーマ部門は「つながり愛」や「絆」をいかに表現するのかといった発想力を、新人部門においては若い方の創作エネルギーを強く感じました。また、今回の応募作品には、これからの時代に向けたジュエリーの提言や創作活力、希望などが見られます。年に1度のコンテストではありますが、今後の業界のレベルアップ、国内のみならず世界に向けた日本ジュエリーのアピールに大きく貢献していくことと思います。一方、厳しい経済環境が続いていますが、こうしたジュエリー創作技術をもってすれば市場活性化にも繋がるであろうとの期待を抱かずにはられません。コンテストの成果はすぐにでも表れて欲しいものです。

入賞作品につきましては作品集として冊子を発刊できましたこと大変嬉しく思います。また、多くのジュエリー関係者におきましては、作品から学ぶことも大変有意義なことではないでしょうか。是非、写真だけではなく実物を目にする機会を作っていたければ幸いです。なお、末筆ながら皆様方には引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。



一般社団法人日本ジュエリー協会
アワード実行委員会
実行委員長

梶 光夫
Kaji Mitsuo

日本ジュエリーの最高峰を求めた「JJA ジュエリーデザインアワード2012」が今年も開催されました。

このアワードは世界に誇れる日本のジュエリーデザイン及び製作技術を発信する場とし、日本ジュエリー文化のさらなる高揚を目的として開催されています。

本年は、社会変化の中ジュエリーのシチュエーションによる分類が難しくなったことと、部門編成の見直し時期にきた事を踏まえてシチュエーション別による分類を改めました。第1部門を「プロフェッショナル部門」、第2部門を「テーマ部門」、第3部門「新人部門」と新たに3つの部門へ分類し、これまで第1部門の作品応募はセットのみとしていましたが応募の門戸を広げるべく単品での応募も可能にしました。また、第2部門は“つながり愛”をテーマとし、協会主催の「JJA ジュエリーつながり愛キャンペーン」

」に連動したテーマで、「つつむ」「つながる」「むすぶ」のキーワードをもとにデザイナー独自の視点から自由な発想と独自性あるジュエリーを募りました。

今回のアワードは、83作品145点の応募であり昨年と比較してかなり減少した結果となりました。それは東日本大震災の影響や宝飾業界を取り巻く状況による影響が考えられ、また、テーマ部門の“つながり愛”のテーマが応募者に対して伝わりづらかったこと、門戸を広げるべく部門編成した結果、逆に応募者側からは門戸が狭く感じられてしまったことが応募数減少に繋がったのではないかと考えられます。

また、今年の応募作品は応募数の減少と共に全体的なレベルが低下しているように感じました。ジュエリーアワードのテーマ「世界へ発信できる日本ジュエリーの最高峰を求めて」にあるように世界に羽ばたける作品をこのアワードから生み出すことが目的でありますので、協会としても優秀な作品が応募される魅力あるアワードになるよう努力していかなくてはならないと考えています。

今回のアワード入賞作品は8月に開催されるジャパンジュエリーフェアで展示され、ステージでは華やかな作品発表のファッションショーと表彰式が行われます。また、9月には国際的な宝飾フェア「香港ジュエリー&ジュエムフェア」の日本ブースに上位入賞者の作品が展示され、世界各国のジュエラーが集まる宝飾フェアでアピールすることが出来ます。

そして今年も10月に箱根ラリック美術館で受賞作品の展示をします。宝飾作家・ガラス作家として一世を風靡した巨匠ルネ・ラリックとこれからのジュエリー界を担う受賞者たちとの美の響演はお陰様で大変ご好評いただき3回目を迎えますが、今回も紅葉のとても美しい時期に作品をご覧いただきます。また、作品展示の他に今年は美術館のカフェレストランにてセミナーを2つ開催いたしますが、これはジュエリーの選び方やファッションとのコーディネートテーマとした魅力あるセミナーであり、一般の方に参加を募りジュエリーの魅力を伝えることを目的としています。

さらに新たな企画として11月に昨年と今年の上位受賞者によるパネルディスカッションが開催されます。次世代の宝飾業界を担う学生向けの企画であり将来の人材育成に貢献することを目的とした内容となっております。

ジュエリーコンテストが少なくなっている現状ですが、今後もジュエリーデザインアワードを権威と格式あるものとし、活動を活発化させ、日本ジュエリー文化・産業の振興・発掘、そして人材育成を使命としてさらなる努力をしまいたいと思っております。

審査員 講評



東京都庭園美術館 シニア・キュレーター

関 昭郎 Seki Akio

「ジャポニスム」とは、19世紀末のヨーロッパにおける美術を中心とした日本趣味のことで、浮世絵と共に工芸の迫真的な自然主義的表現が賞賛されました。ところが、1920年代前後のアール・デコの時代になると逆に簡潔さや色彩のコントラストが注目されました。つまり、必ずしも「日本らしさ」とは普遍的なものではなく、その内容を決めるのは同時代の美意識なのです。

海外でも作品が展示される本アワードでは、現在の日本からの発信力が強く求められています。その点で、昨年から、新人部門に可能性の感じられる作品が目につくようになったことは特筆すべきことです。私たち、審査員が出品作品に期待するのは技術と着想との高次元での融合ですが、新人大賞の鈴木まゆ子さんはこの意味で十分に評価できます。作品はギミックな構造だけでなく、すこしつぶれた真珠を選ばれた点に作者の感性のエlegantさがうかがえます。一方のプロフェッショナル2部門では、意欲的な姿勢を評価した石原マキさんの大賞受賞作を含め、全体に未消化な要素が目についたことが惜しまれました。



山梨県立宝石美術専門学校 校長

青島みどり Aoshima Midori

■ジュエリーデザインアワード2012 審査を終えて。
何回やってもコンテストの審査には難しいところがあります。それは限られた作品の中から選ばなければならないということ。ジュエリーデザインアワード2012のコンテストは、単なるコンテストではなく、世界に向けて日本のデザインを発信していくという役割も担うものですが、今回はその点を意識した作品が少なく、結果として各賞は決定しましたが、全体として満足のいくレベルではなかったことが残念というのが実感です。

また、今回、出品作品にはコンセプトシートがついており、デザインの意図や作者の思い、素材の特徴や作りのこだわりなどが作品にプラスしてアピールできるようになっていましたが、汚い字でなぐり書きのようなもの、何も書いてないものなどの作品も多かったのが気になりました。作品が語ってくれると思っているのでしょうか？それは大きな間違いで、作者自身が自分の言葉でしっかりと伝えることが1番のプレゼンテーションだと思います。世界を目指すのであれば、デザイナーは良きプレゼンテーターになることを期待します。



ジュエリーデザイナー

池田啓子 Ikeda Keiko

長年、宝石デザイン及び制作一筋に励んできました。全世界のジュエリーを愛する人々への訴求と、強力なメッセージ性の具備を考えて審査にあたりました。

ジュエリーはそれ自体美しいものです。そこに楽しさとファッション性の演出を加え、身に付けた人を内面からより引立て、変身させるものが最高と考えております。

アメリカのGIAで学んでいた時、日本人の創るものは日本の風土、文化、生活に根差した独特なものがあり、自信をもってより深めていけば良い、と強く感じたものです。

プロの1部、2部共に票がバラケました。

それは残念ながら同一レベルであることの現われとれます。躍進の前のステップと考えましょう。日本人特有の緻密な仕事も何点か見せてもらいました。嬉しいことです。プラチナギルド賞になった作品はファッション性、技術面共に素晴らしい。3部の新人部門は楽しいものが沢山ありました。期待しています。



社団法人日本真珠振興会 参与
木下 章 Kinoshita Akira

JJA ジュエリーデザインアワード2012の開催おめでとうございます。沈滞が続く日本の宝飾業界において素晴らしいデザインのジュエリーを発信していくことは、市場を活性化する意味において大変重要なことだと感じます。この賞がもっと発展することを心より願います。

今回、日本真珠振興会会長賞に選出させていただきました作品は、日本の美しいアコヤ真珠と日本の伝統的な貝殻を使用した螺鈿で作られたブローチです。永遠を感じさせるデザインの中に日本が凝縮されている素晴らしい作品であります。日本のアコヤ真珠の生産も大震災により少なからず影響がありました。

日本の復興のなかで日本のアコヤ真珠も元気を取り戻し、日本の人々の心の復興に一翼になれば幸いです。



デザインディレクター
桐山登士樹 Kiriya Toshiki

世界経済が低迷し産業界に明るい話題が少ない。しかし、こうした時こそ頭角を現すチャンスでもある。既存のジュエリーに捉われない大体なデザイン提案が求められる。例えば、カジュアル化するファッション動向を読み取った賢いジュエリーもあるだろう。女性の装飾品として硬直化したジュエリーをもっと男性に向けて開放しても良いだろう。身につけるモノから持つものへ様式の再構築もあるだろう。デザイナーの生命線は守る事で着なく、変える事である。

JJA ジュエリーデザインアワード2012は、期待とは裏腹に力強い提案はなかった。新人デザイナーの第3部門には今後の活躍が楽しみな卵達がいいた。しかし、全体的には経験豊富な審査委員を納得させるにはパワー不足だった。

このアワードの参加の方にお願したいのは、機械やコンピュータに支配されるのではなく、自分が満足するまで何枚も、何枚もスケッチを描いて欲しい。そして、その作品が存在する意味を明確に語って欲しい。人はそんなデザイナーの想いや情熱に打たれるのである。



ファッションデザイナー
コシノヒロコ Koshino Hiroko

ジュエリーを取り巻く環境や価値観は、いま転換期にあると感じています。今回審査をお引き受けするにあたり、次世代の美へ向けて従来の価値観をがらりと変えるようなデザイン力を求めていましたが、それに触れることができなかつたことが非常に残念でした。応募数自体が少なかったことに加え、全体的に新しさを感じられず、難しい審査であったことをまず告白します。

一位の作品に対しても、そういう意味では双手を挙げてというわけにはいきませんでした。ただ、決め手に欠ける中で、日本的な感性を感じさせる点、伝統的な何かを表現しようという意欲にあふれている点を評価しました。

一方で、新人デザイナーが健闘していることは印象的でした。オリジナルなクリエイションと技術に磨きをかけ、日本のジュエリーデザイン業界を背負って立つ人材に育つことを期待しています。そしてそのためには、某かのシステムの改良も必要なのかもしれないとも感じています。



一般社団法人日本ジュエリー協会 アワード実行委員会 卓越技能者(現代の名工)
坂巻章雄 Sakamaki Akio

本年、梶 光夫 実行委員長のもと、アワード実行委員として JJA ジュエリーデザインアワード2012の審査会に参加させていただきました。故・石川暢子氏の口ぐせで、「日本のジュエリーの最高峰を世界に向けて発信する。」を胸に、審査基準の着想(独自性)・デザイン(創造性豊かで先進的なデザイン)・技術(高度な製作技術)の三点について厳正に審査を行いました。が、作品の応募総数、各部門の応募作品のデザイン完成度(熟成度)共に例年を大きく下回っているように感じました。

近年のデザインは、「軽いイメージでポップなデザイン」が求められているようですが、世界に向けて発信する日本のオリジナルデザインの追及においては、軽いやポップだけで良いのか?と、迷いました。

例えば、「ベンツ」という自動車会社がありますね。20年、30年前のデザインと現在のデザインを比較すれば、はるかに洗練されています。しかし、ベンツのフォルム 或いは、カラーと言われる存在感は、何年経とうとも変わらず高い品格を保ち、自動車業界をリードしています。

日本のジュエリーに於いても、そのような味わい感が出来ないものかと常々思っています。日本人の繊細(細やか)さ、奥ゆかしさ、そして他国では真似ができない上品さが、ジュエリーの中に見出されると、「ジャパンプランド」は世界中で更なる高い評価がなされるのではないかと考えています。

最後に、第3部門で学生さんの応募数(卒業作品の出品)が減ったことは、作品を発表する貴重な機会を無駄にしていると思います。今回は、業界経験5年未満の個人として、若さあふれる作品を応募してください。



「宝石の四季」編集長
清水良美 Shimizu Yoshimi

大賞該当作品がない中で、あえてトップを決めるのならば、審査の流れから厚生労働大臣賞、日本ジュエリー協会会長賞を受賞した作品のどちらかだっただろう。世界のジュエリーコンテストで、シルバーで制作されたものがトップになることは通常考えられない。おもしろさ、デザイン性だけを重視したら、限りなくアクセサリーに近づく恐れがある。まず、ジュエリーの本質ありきである。私が一票を投じたのは優秀賞を受賞した真珠のブローチ。華美なデザインでなく小さな作品だが、真珠のメーカーからの応募だろうか。同じ有機質のトルコ石と貝を丁寧に張り合わせ、真珠の耀きを引き出していた。何よりもジュエリーの本質とプライドを感じた。そして気品があった。そんな手仕事が日本らしさではないだろうか。



公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会 会長
菅沼知行 Suganuma Tomoyuki

2012ジュエリーデザインアワードのJJDA会長賞は鈴木まゆ子さんの「リングシリーズ」に決定いたしました。アイデア、技術とも申し分のない素晴らしい作品です。

「着ける人の指の太さや形によって指輪全体の形が変化」する、このアイデアの柔軟性は類をみません。可動部分がいかにスムーズに作られているかが鍵になりますが鈴木さんの指輪はさらさらと気持ちよく動きます。残るは耐久性です。今後もどしどし新しいアイデアでジュエリーの世界に新風を吹き込んでください。

昨年に続き新人大賞とのダブル受賞になりました。これには必然性があります。JJDAのジュエリーアート展も26歳以下の人達の作品がほぼ上位を独占しました。一時期「若者に元気がない」と言ってきた者としては嬉しい限りです。しかし逆にいえば今度は「ベテランに元気がないね」と言わざるを得ません。ジュエリー業界の空気を反映してしまっているわけですが、逆にアワードから業界を引っ張っていくような作品の登場が待たれます。次の奮起を期待いたします。



ジュエリークラフトマン
西田良洋 *Nishida Yoshihiro*

■審査員を努めさせていただき思うこと

プロフェッショナル部門では、製作日数を費やされたと思われる作品等が多くみられ伝統技術（ネジ工法）現代的技術（キャド・レーザー）製法等を取り入れ、技術がアップされている中、ほとんどの製品がメレーダイヤ等の裏窓取りをされてなく残念に思います。

温故知新の誠心を持って、新しい技法を身に着け、世界のジュエリーにセンス良く会い塗れてほしいと、希望を持って第3部門の製作者の方々にエールを送りたいと思います。

技術賞の選定では、第1部門で材質又は本来の規制にとらわれない観点から「Point (点)」を選びました。

第2部門「LOVE WING RING」は、テーマを理解し本筋のジュエリー技術として、坂巻氏と意を共にして選定しました。

デザイン製作された方々の労を思うと、直観で見える目、じっくり見る目で全作品を公平にジャッジするには、自分自身、もう少し時間をかけられなかった事が惜しまれます。

ジュエリー協会、デザイナー、製作者のより一層の飛躍を期待いたします。



ジュエリージャーナリスト
渡辺郁子 *Watanabe Ikuko*

ヨーロッパの女性に「あなたにとってジュエリーとは？」と取材すると、しばしば「私のアイデンティティです」という答えが返ってきます。ジュエリー = ID だから、他の人とは違うデザインやつけ方にこだわるということなのです。彼女たちのジュエリーはとんでもなく大きかったり、繊細なものを幾重にも重ねたり、実にいろいろです。ジュエリーで自己主張をしていることがわかります。IDとなるジュエリーは、サイズの大小に関係なく存在感があり、作り手の思いが詰まった作品です。そして、それを身につける人の生き方や意志を代弁しているようにも思えます。

小さなスペースで何か表現し、装着性を求められるジュエリーのデザインは容易ではありませんが、クリエイターには、消費者に自身の表現手段のひとつとして選ばれる作品を作っていただきたいと思います。初めて審査会に参加させていただきましたが、特に「新人部門」には日本のジュエリーの新たな可能性が見え、喜ばしく思いました。JJA ジュエリーデザインアワードに今後も個性豊かな才能が集結することを期待しております。

審査員一覧（審査員長以下50音順）

審査員長	関 昭 郎	東京都庭園美術館 シニア・キュレーター
審査員	青島みどり	山梨県立宝石美術専門学校 校長
	池田 啓子	ジュエリーデザイナー
	木下 章	社団法人日本真珠振興会 参与
	桐山登士樹	デザインディレクター
	コシノヒロコ	ファッションデザイナー
	坂巻 章雄	一般社団法人日本ジュエリー協会 アワード実行委員会 卓越技能者（現代の名工）
	清水 良美	「宝石の四季」編集長
	菅沼 知行	公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会 会長
	西田 良洋	ジュエリークラフトマン
	渡辺 郁子	ジュエリージャーナリスト

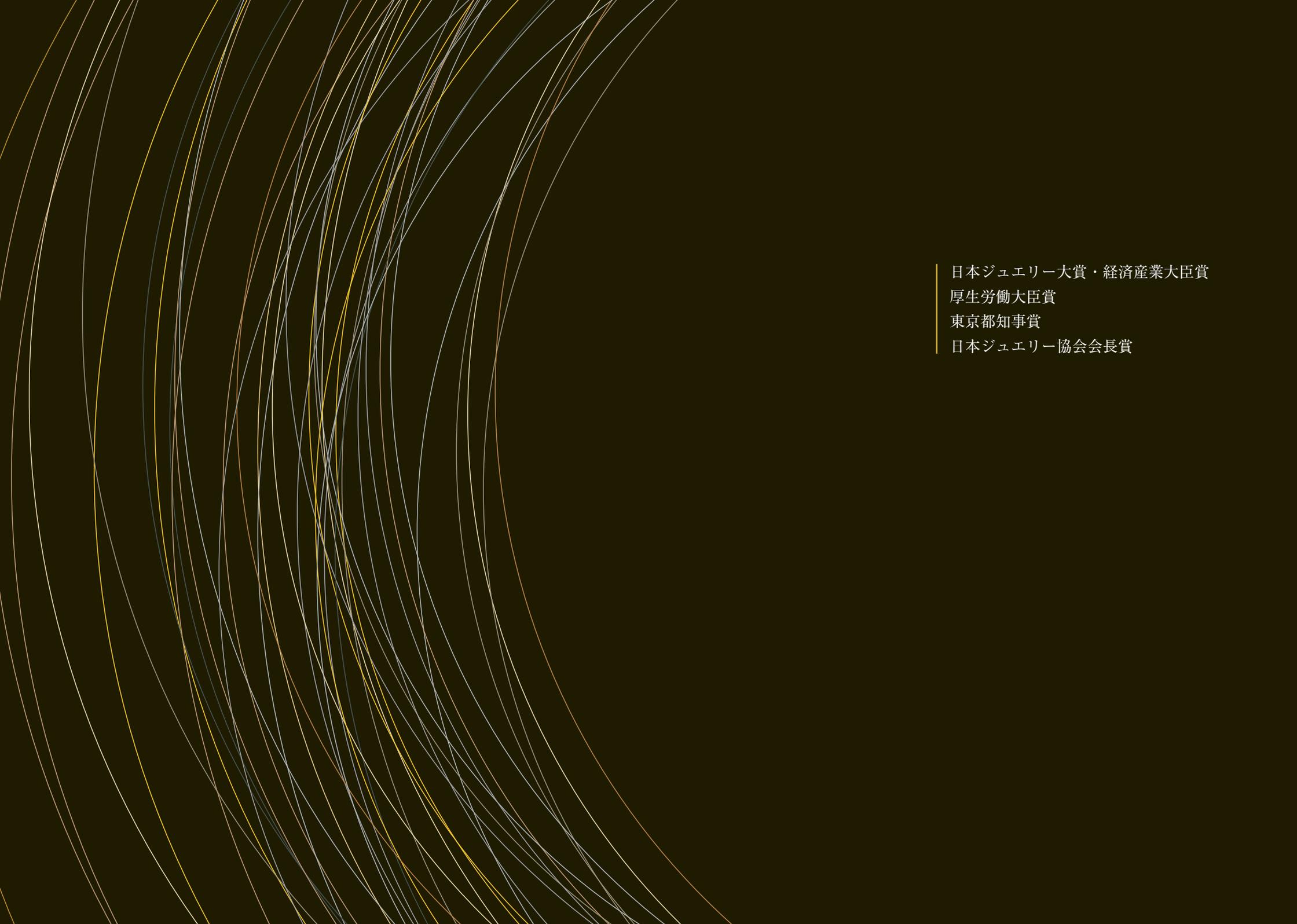
特別賞選定員	木下 章	社団法人日本真珠振興会 参与
	菅沼 知行	公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会 会長
	武者 智子	プラチナ・ギルド・インターナショナル トレードマーケティング部 マネージャー

■応募作品・点数

第1部門	プロフェッショナル部門	20作品	31点
第2部門	テーマ部門「つながり愛」	29作品	49点
第3部門	新人部門	34作品	65点
		合計83作品	145点

■入賞作品

24作品 48点



日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞
厚生労働大臣賞
東京都知事賞
日本ジュエリー協会会長賞

日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞



石原マキ

Ishihara Maki

[E-mail] gavidro@piano.ocn.ne.jp

「青梅雨にふと、命萌す」

5月の午後。空からの一滴があらゆる生物を動かす。そしてそこには、何にも動じずにまっすぐ伸びる青麦の命が眩しかった。海に生きる白蝶貝から、空の雲を削り出していく。金剛砂の技法、細部にも魂を込めることで、壮大且つ繊細な美しさを持つ自然への感動と畏敬、感謝の気持を表現した。

2005年 埼玉大学教育学部卒業

2010年 JTOジュエリーデザインコンテスト シルバー製品部門 台東区長賞

2011年 JJAジュエリーデザインアワード2011 第2部門 入選
第15回 パールジュエリーデザインコンテスト 特別賞

ネックレス・イヤリングセット/Ag925・K18/ヒスイ・白蝶貝



厚生労働大臣賞



島村弘美 デザイナー/応募者
Shimamura Hiromi

〔製作者〕 株式会社KARAT 丹澤昌二

「絆のエンターテイメント」

強い絆で結ばれ、華やかなショーを繰り広げ観客に強い感動を与えるサーカスをモチーフにしました。シンプルな図形を基調に、色彩も金銀二色で、見る人のイメージが広がるようにしています。各々のパーツは可動で、更にチェーンの付け替えで3パターンのアレンジができます。着けた人の心が弾み愉快になることを願ってデザインしました。

- 1981年 広島女学院大学卒業
- 2008年 JJA ジュエリーデザイナーアワード2008 優秀賞、日本ジュウリーデザイナー協会会長賞
- 2009年 JJA ジュエリーデザイナーアワード2009 入選
- 2010年 JJA ジュエリーデザイナーアワード2010 入選
ジュエリーブランド Ino 設立
- 2011年 アテナ宝石デザイン研究所修了
JJA ジュエリーデザイナーアワード2011 技術賞



ネックレス・ペンダント・チェーンセット/K18 (WG・YG)/ダイヤモンド・白蝶真珠

東京都知事賞
プラチナ・ギルド・インターナショナル賞

商品開発部 水口 顕 デザイナー
Mizuguchi Akira

[製作者/応募者] 株式会社 桑山

「Couture Necklace ークチュール ネックレスー」
クチュールドレスのように仕上げられたプラチナのレース
が繊細に微妙に首元で揺れます。中央のパールネックレス
も間のダイヤモンドが微妙に揺れるよう製作しています。
装着した時が文字通り一番「煌めく」ネックレスを目指し
デザイン製作したものです。

2007年 JJAジュエリーデザインアワード2007
日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞
2008年 JJAジュエリーデザインアワード2008
厚生労働大臣賞
2010年 JJAジュエリーデザインアワード2010
日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞
2011年 JJAジュエリーデザインアワード2011
日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞



ネックレス/Pt950/ダイヤモンド/アコヤ真珠

日本ジュエリー協会会長賞 第2部門 技術賞



クリエイティブチーム 梶 真起 デザイナー
チーフ
Kaji.Masaki

〔製作者〕 株式会社 カジ・インターナショナル
クリエイティブチーム

〔応募者〕 株式会社 カジ・インターナショナル

〔E-mail〕 kaji-international@orion.ocn.ne.jp

「LOVE WING RING

—愛をつつむ翼をイメージした作品—

幸せ運び、希望を象徴する翼は身に付けた時のフォルムの美しさとリングの存在感を意識して独自のカタチを表現しました。

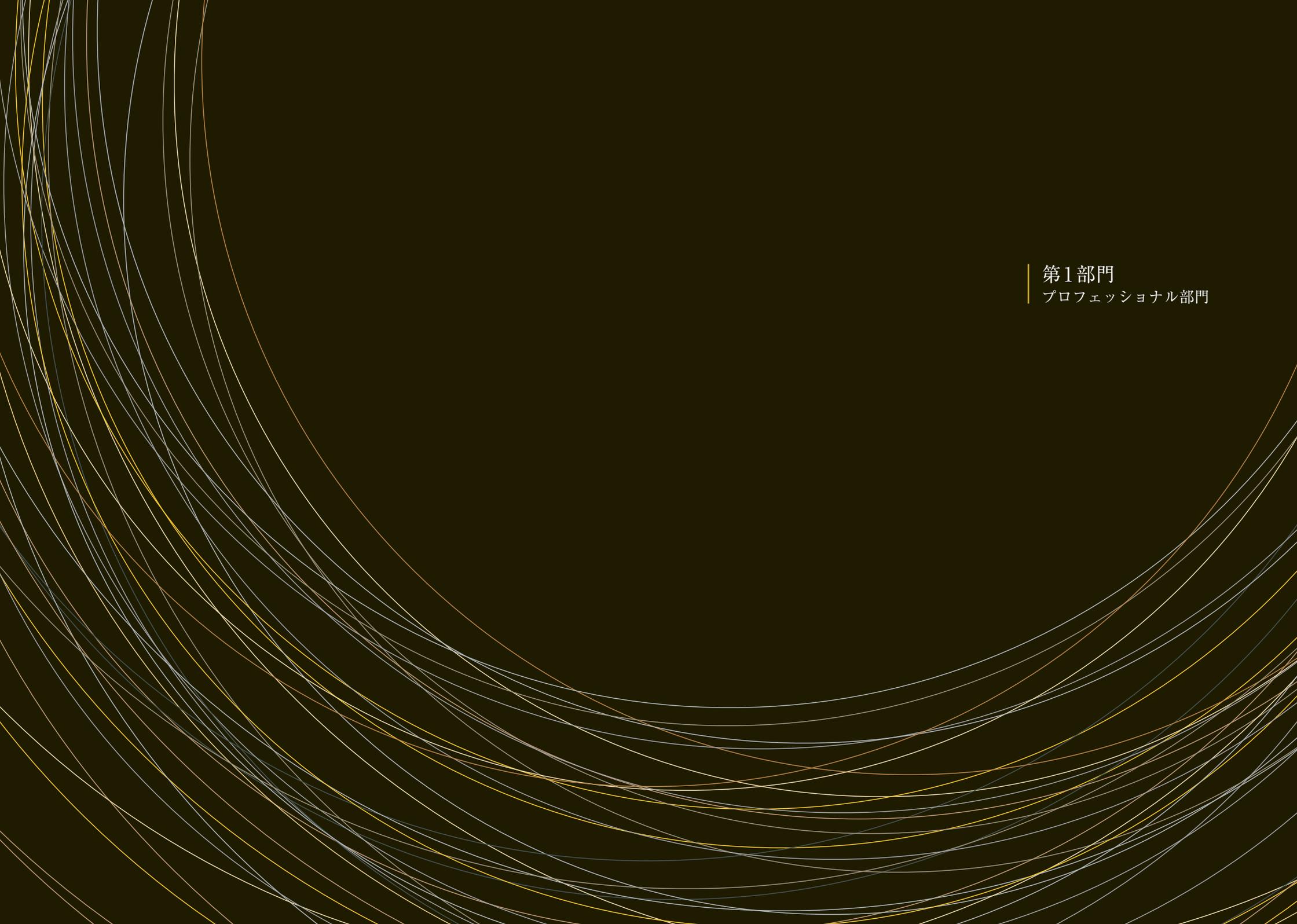
輝く愛はダイヤモンドで表現し、ダイヤモンドをつつむ翼は見るアングルによって幸せや平和を祈る“合掌”している形にも見えるようデザインした作品です。

2009年 JJA ジュエリーデザインアワード2009
優秀賞、プラチナ・ギルド・インターナショナル賞

2011年 JJA ジュエリーデザインアワード2011
東京都知事賞、プラチナ・ギルド・インターナショナル賞、
佳作、技術賞



リング/K18YG・Pt900/ダイヤモンド



第1部門
プロフェッショナル部門

優秀賞



今野琢也 デザイナー/製作者
Konno Takuya

[応募者] 株式会社 ミキモト装身具

「SORA」

柔らかい光を放つ空の表情を放射状の石の配列で表現しました。

デザイン、細工、仕上げ、石の加工等全工程を一貫して製作。

1986年 神奈川県生まれ
2007年 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ卒業
2009年 株式会社ミキモト装身具入社



ブローチ/K18WG/パール/トルコ石・白蝶貝

佳作 技術賞



ペンダント・リングセット/Ag950/水晶

小嶋崇嗣 デザイナー/製作者
Kojima Takashi

[応募者] FACILE jewelry

[E-mail] info@facile-jewelry.com

「Point (点)」

人や物事が点と点で結ばれ、派生していく過程がジュエリーという形をとり、身体から美しく伸び、生まれていく様を視覚化しました。

それを具現化するため、石と石が点で支え合い、様々な角度から石の表情が見える構造を考案し制作しております。

入選



ネックレス・ピアスセット/K18WG/ルビー・サファイヤ/エメラルド・めのう・ダイヤモンド

川崎達彦 デザイナー/製作者

Kawasaki Tatsuhiko

[応募者]

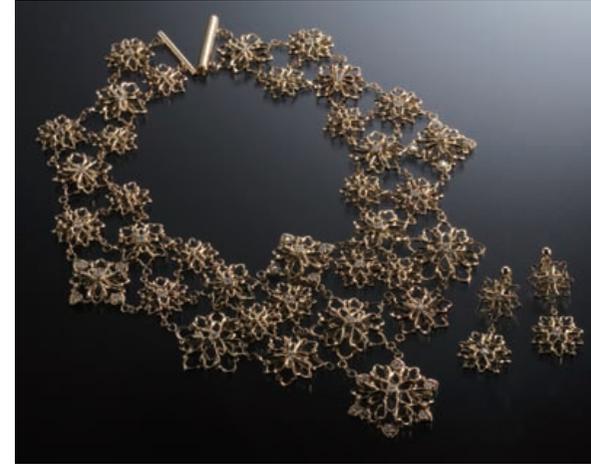
株式会社パルサーエンタープライズ

[E-mail] pulsar-ent.8880@nifty.com

「フェニックス (火の鳥)」

日本再生の想い。炎の翼を拡げ大空に舞い上るフェニックス。

炎の温度差を表現するのに苦労しました。



ネックレス・イヤリングセット/K18/ダイヤモンド

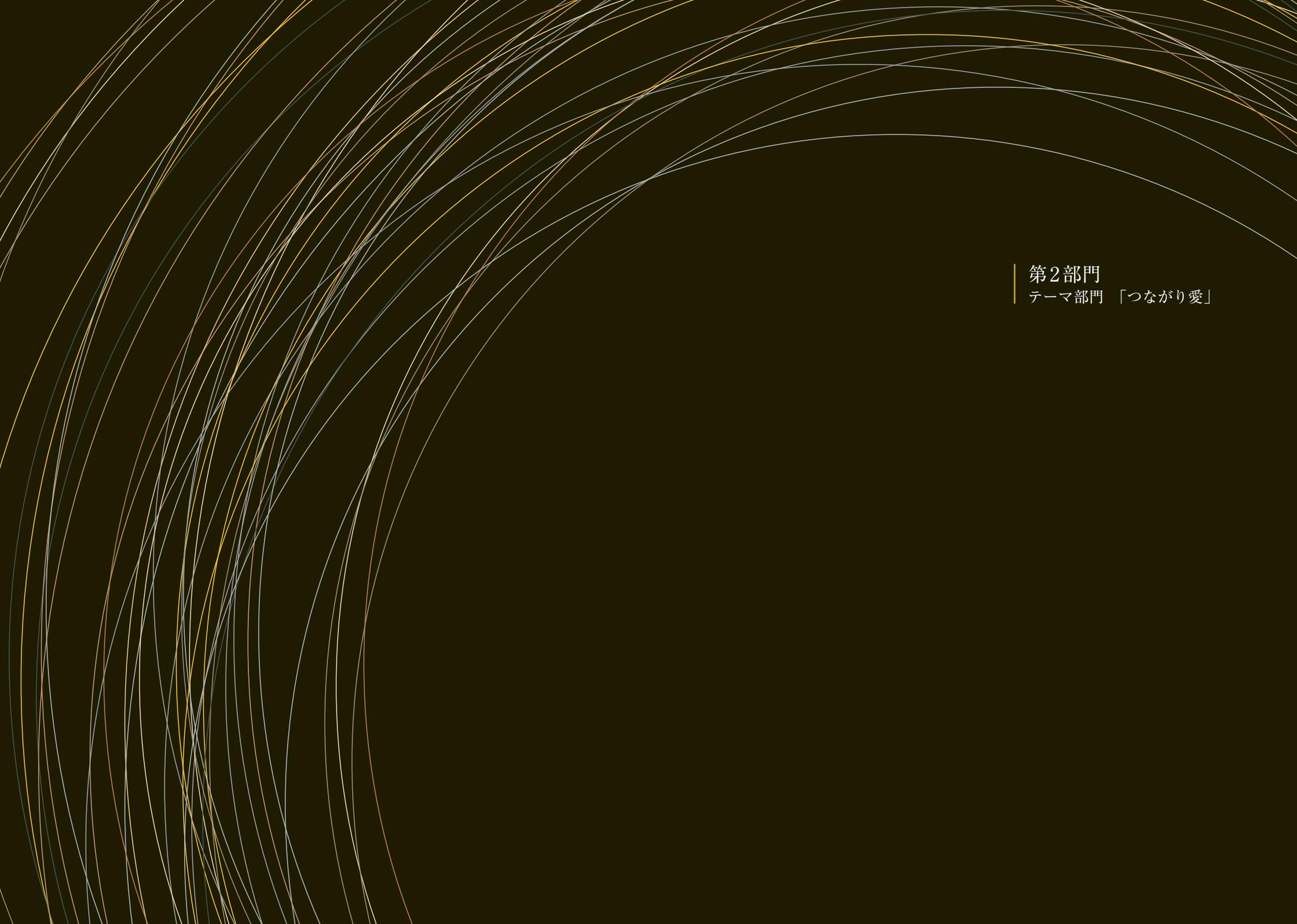
名取洋佑

Natori Yosuke

「花火」

夜空を彩る花火の華やかさ繊細さを表現してみました。

二重の作りによって立体感をだし、ダイヤモンドを使い夜空に打ち上げられた花火の煌めき感を出しました。



第2部門
テーマ部門 「つながり愛」

優秀賞



橋本早苗 デザイナー/応募者
Hashimoto Sanae

[製作者] ジュエリーツバメ
[E-mail] panapana2001@hotmail.com

「KOSMOS」

ダイヤモンドの原石は己。取り巻くメレダイヤは自分を支えてくれる人々。自分とは周りの人々の愛や繋がりによって生かされている。その繋がりを繊細な地金ラインを使い、広い宇宙のような空間とこれから美しく開花する大輪となるよう、大きく力強く表現したかった。

身に着けると、原石の一面が指に触れる。原石のパワーを感じてほしい。

- 2004年 セントラルセントマーティンズカレッジ (ロンドン芸術大学) ジュエリー学科卒業
- 2009年 JTO ジュエリーデザイン画コンテスト 東京都知事賞
- 2010年 SUWA ラフダイヤモンドメンズジュエリーコンテスト 優秀賞
- 2011年 ワールドジュエリーデザインコンテスト 入選



リング/K18YG/ダイヤモンド原石/ダイヤモンド

佳作
日本真珠振興会会長賞



ブローチ*ペンダント/K18YG/アコヤ真珠/ダイヤモンド/(螺鈿)

中村充男 デザイナー

Nakamura Mitsuo

[製作者] 早川守彦・川崎 薫

[応募者] 株式会社 伊東商店

[E-mail] design-r@ijey.com

「WA」

環=つながる環 みんなの輪 絆をイメージしてデザインしました。CADから螺鈿まで社内技術の連携で制作しました。

和=和調の侘びさびを意識して世界へ誇れる日本の和珠を中心に日本の古典技術の螺鈿を使用してMade in JAPAN のJewelryを強く意識してデザイン制作しました。

佳作



ネックレス/K10YG・Ag999・Ag925/パール・マルチ

紺谷里美 デザイナー/製作者

Kontani Satomi

[応募者] Dear.S

「キャンディー・レイ」

どんな大きさや形であっても、集まって力を合せる姿は、美しく人を勇気づけます。今、未曾有の大災害に際し、国や人種を越えて支援が注がれています。その様子をレイに込めました。そしてこのレイを支えられる側、支える側のどちらにも掛けて、双方の胸に輝しいメダルとなって、皆を元気づけられたらと願って製作しました。

入選



ペンダント・ピアスセット/K18・K18WG/ダイヤモンド・パライバトルマリン/淡水真珠

有賀いぶき デザイナー/応募者

Ariga Ibuki

【製作者】 株式会社 東和貴石

【E-mail】 iridegnita@yahoo.co.jp

「繋がるの海」

五大陸は海で繋がっている。左上の白い波と右下の青い海の出会う中央に日本。世界の繋がりを日本から発信。



リング・イヤリング・ブレスレット・ネックレスセット/PT-K18-K18(YG・WG)/パール/ダイヤモンドルビー・エメラルドトルマリン

吉田園子 デザイナー

Yoshida Sonoko

【製作者/応募者】

栄光時計株式会社 広島営業所

「手を取りあって未来へ！」

ネックレス・イヤリングの顔に近いものは情熱を。ブレスレット・リングには豊かな落ちつきで手を取り合って皆で未来へ！



リング/K18/ダイヤモンド/サファイヤ・淡水真珠(ブラックライト照明使用にて撮影)

鈴木孝典 デザイナー

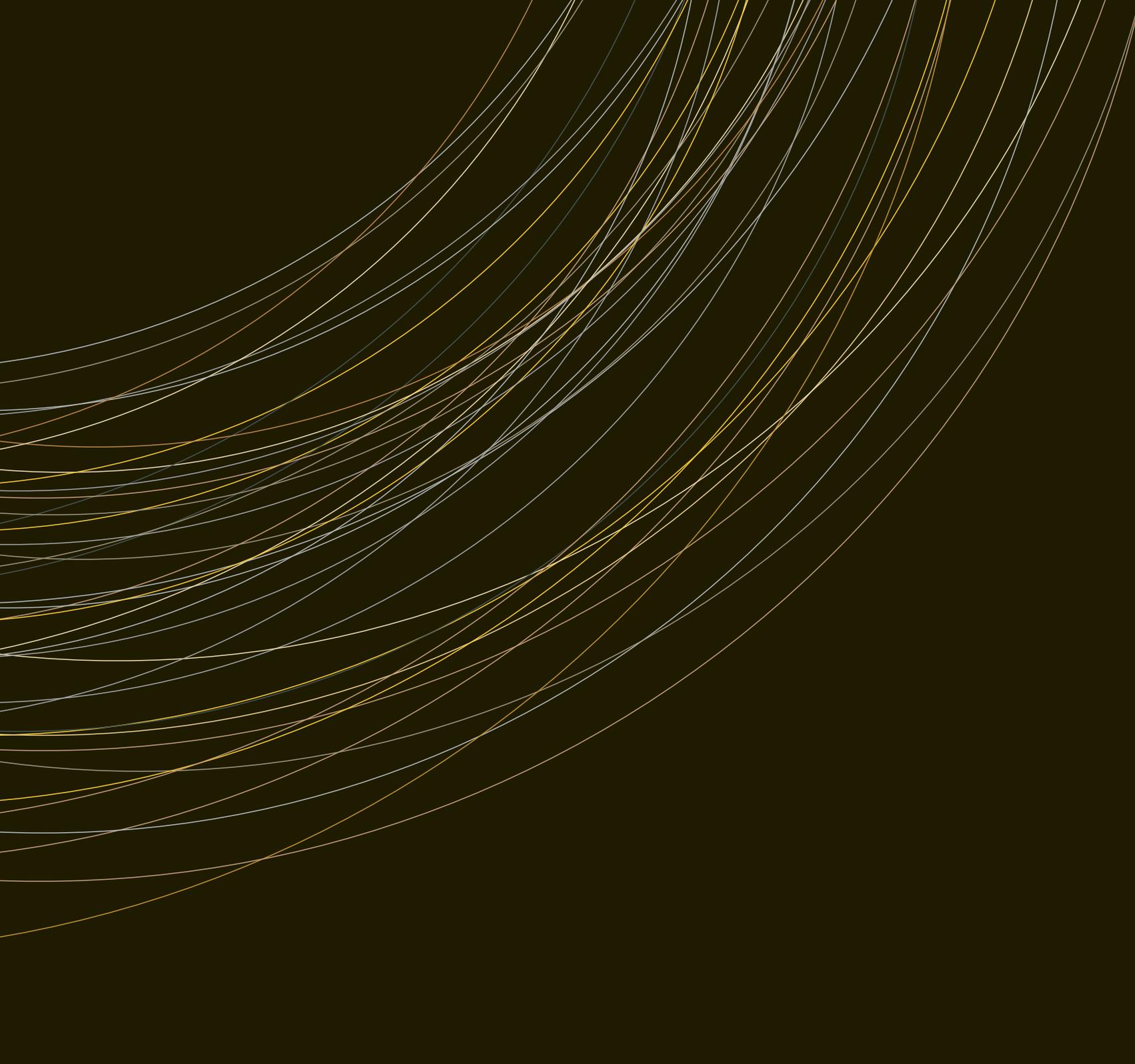
Suzuki Takanori

【製作者】 エイス貿易

【応募者】 有限会社 プラディア

「希望」

花と蝶が共存する姿をモチーフにしました。希望の光が心の奥底まで届き、やさしく灯してくれることを願っております。



第3部門
新人部門

新人大賞
日本ジュエリーデザイナー協会会長賞

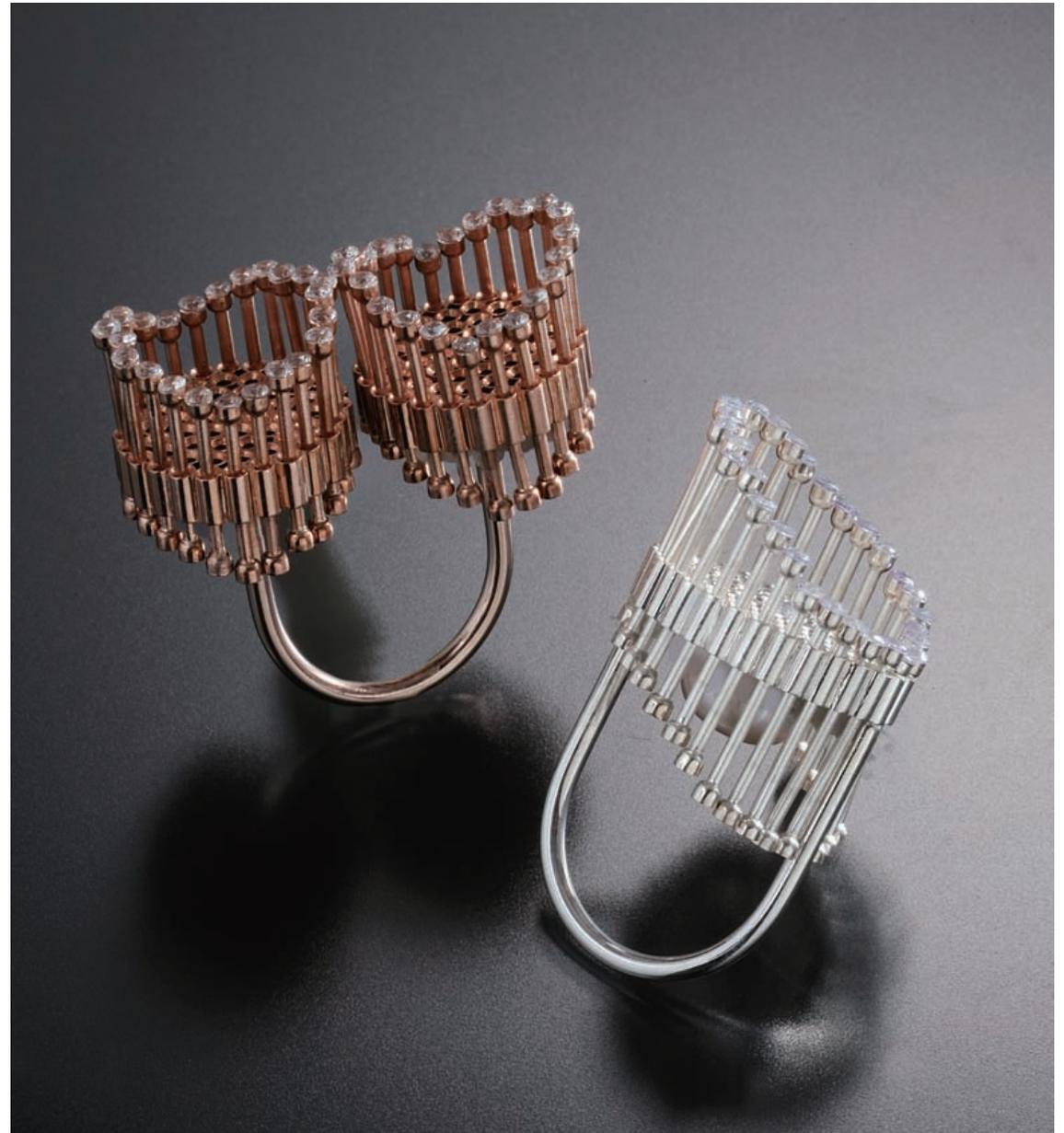


鈴木まゆ子
Suzuki Mayuko

「夢∞幻」

パイプを円になるようにまとめ、外枠の丸線が動くデザインにしました。銀色の指輪には内側に真珠を置き高さを出し、より表情がゆたかになるように制作し、ピンク色の指輪には2つのハートも現れます。つける人、つける指、動かす度に表情が無限に変化する様子を見て楽しんでいただけたらと思います。

1981年 東京生まれ
2002年 華服飾専門学校テクニカルデザイン科
オートクチュールコース卒業
2012年 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ
ジュエリーメーキング1年コース終了※現在研修生として在籍
第2回日本ジュエリーデザインコンペティション 入選



リングシリーズ/silver/パール/キュービックジルコニア

新人優秀賞



ネックレス・ピアスセット/Ag925/アメシスト/サファイア



ネックレス・リングセット/silver/オパール/(金メッキ)



田上菜穂子 デザイナー/応募者

Tanoue Naoko

[製作者] 本田くるみ

「morning sea」

まるで海から立ち昇る泡のよう…。影の模様が印象的なアメシストとの出会いから生まれたジュエリーです。陽が昇る時、海が優しい紫色に見える一瞬があります。そんなどこか希望を感じさせる優しい朝の海をイメージしました。カラーサファイアのグラデーションで太陽の光が海に入り、キラキラと煌めく様子を表しています。

1973年 愛知県生まれ
1993年 立教女学院短期大学卒業
2010年 Shenzhen International Jewelry Design Contest 優秀賞
フレッシュマンジュエリーデザインコンテスト 優秀賞
JTOジュエリーデザインコンテスト 東京都知事賞
2012年 アテナ宝石デザイン研究所修了予定



北林洪子

Kitabayashi Hiroko

[E-mail] photosynthesis_ffiff@yahoo.co.jp

「オパールの花」

オパールは単体でも十分美しい。しかし、金属と組み合わせ、「オパールの花」という新しいモチーフに昇華させることによって、独創的で美しさが極立つジュエリーになるよう心掛けました。

1986年 北海道生まれ
2010年 武蔵野美術大学 金工専攻卒業
2011年 伊丹国際クラフト展 入選

新人優秀賞



リングシリーズ/silver/(金メッキ)



北林洪子

Kitabayashi Hiroko

[E-mail] photosynthesis_ffff@yahoo.co.jp

「手乗り動物園」

加工によって様々な表情を見せる銀という素材を、動物園というテーマに沿って楽しげに表現しました。見る人それぞれにちょっとしたストーリーのようなものを思い浮かべていただけたら幸いです。

1986年 北海道生まれ
2010年 武蔵野美術大学 金工専攻卒業
2011年 伊丹国際クラフト展 入選

入選



リング/silver/トパーズ・アメシスト・ベリドット・トルマリン・ムーンストーン・シトリン・サファイア・ガーネット

木村郁美

Kimura Ikumi

[E-mail] popopo1230@isoftbank.jp

「宝石箱」

宝石箱をあける時のわくわく感をイメージし、集まった時と散らばった時の石の輝きの違いを楽しむように製作しました。



リングシリーズ/Ag950/合成ルビー/合成サファイア/キュービックジルコニア

大塚 岳

Otsuka Gaku

オリジナルの石留めでリングを3本制作。地金の厚さに合わせてデザインを変えてみました。



リングシリーズ/Ag925/ベリドット/パール/ロードクロサイト

長澤知美

Nagasawa Tomomi

「四季」

球体の透かしは各季節の花々をデザインし、内部には花々の陰に隠れたかのような四季の風物を入れました。



リングシリーズ/silver

清水政紀

Shimizu Masaki

[E-mail] shimizumasaki0722@gmail.com

「ダンボール」

普段は光を当てられない、ダンボールの持つ切断面の美しさや楽しさに惹かれ製作した。綺麗な波を作るための道具を作成

入選



リング*ペンダント/Ag925・Ag100/パール/(七宝)

長澤知美

Nagasawa Tomomi

「フラワーガーデン」

花に溢れる庭をモチーフにしました。リングは3パーツに分離が可能です、ペンダントトップにもなります。



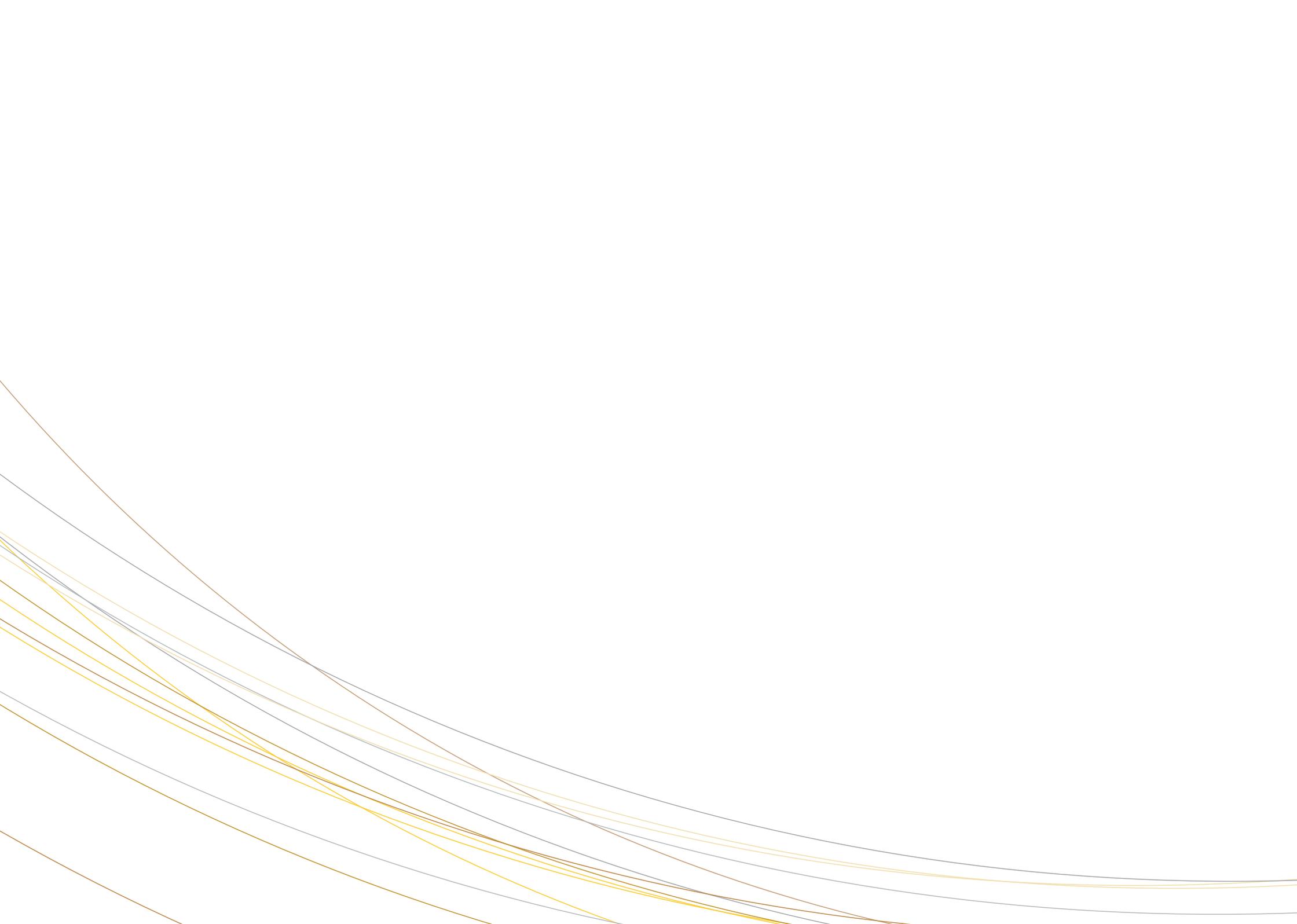
ネックレス・イヤリング・リングセット/silver/(四分子)

武井真澄

Takei Masumi

「fin」

魚のひれのイメージです。象嵌で模様を描いた上に彫りを施すことで、独特のゆらぎや生命感を表現しました。



| 一般社団法人 日本ジュエリー協会

| アワード実行委員会

| 実行委員長

梶 光夫

| 委 員

坂巻 章雄

高橋 博文

松井 久子

松崎 憲子

山本 真理

横山 裕

■ 編 集

一般社団法人 日本ジュエリー協会 アワード実行委員会

■ 撮 影

Studio A-Vipc

■ 印 刷

山口北州印刷株式会社

■ 発行日

2012年8月28日

■ 発 行

一般社団法人 日本ジュエリー協会

〒110-8626 東京都台東区東上野2-23-25

TEL (03) 3835-8567 FAX (03) 3839-6599

<http://www.jja.ne.jp> E-mail: ja@jja.ne.jp

禁無断転載複写



一般社団法人日本ジュエリー協会